

11

他学部・他学科開放科目 産学連携教育プログラム

他学部・他学科開放科目の履修

専門領域にとらわれない幅広い分野の中から、目的や興味に応じた学修を通して、より幅広い知識を修得することを目的として、他学部・他学科において開放されている授業科目（開放科目）を履修することができます。

1 履修方法

開放科目一覧から自分の履修したい授業科目を選び、授業担当教員の許可を得た上で履修登録してください。

履修上の注意点

- ① 授業科目によっては、一定の条件を満たさなければ履修できない科目がありますので、授業担当教員の説明や『シラバス』の「履修条件」欄で確認してください。
なお、他学部の『シラバス』は明海大学浦安キャンパスホームページ上で閲覧することができます。
- ② 履修に当たっては、必ず授業担当教員の許可を得てください。授業担当教員に無断で登録した場合、単位が認定されないことがあります。
- ③ 下位年次配当科目の履修は認められますが、上位年次配当科目の履修は認められません。
- ④ 学部・学科・専攻・コース・メジャー等により、他学部、他学科開放科目の履修が認められない場合があります。卒業要件単位数に算入される区分等を含め、詳細は教育課程表を確認してください。
- ⑤ 今年度開講されない授業科目については、授業時間割等で確認してください。

2 共通科目【キャリア形成教育】に含めることができる開放科目（全学科対象）

開講学科	開放科目 〔（ ）の数字は単位数〕	開講年次	該当入学年度に●が付してある科目のみ履修可	
			2021年度 以降	2016～ 2020年度
日本語学科	日本研究(2)	2・3・4	●	
	東アジア研究(2)	2・3・4	●	
	文化講義Ⅰ(日本)(2)	2・3・4	●	
	文化講義Ⅱ(異文化理解)(2)	2・3・4	●	
	応用言語学(2)	3・4	●	
	社会言語学(2)	3・4	●	
	比較文化論(2)	2		●
	日本語教育のための英語(2)	3・4		●
	日本語教育のための中国語(2)	3・4		●
	日本語教育のための韓国語(2)	3・4		●
英米語学科	英語圏の文化と社会(2)	2		●
	英語史(2)	2	●	●
	対照言語研究 a (2)	2	●	●
	対照言語研究 b (2)	2	●	●
	英文法研究 a (2)	2	●	●
	英文法研究 b (2)	2	●	●
	英米文学史(2)	2		●
	時事英語 a (2)	2	●	●

開講学科	開放科目 〔() の数字は単位数〕	開講年次	該当入学年度に●が付してある科目のみ履修可	
			2021年度 以 降	2016～ 2020年度
英米語学科	時事英語 b (2)	2	●	●
	Interpreting Skills a (2)	3・4	●	●
	Interpreting Skills b (2)	3・4	●	●
	Translation Skills a (2)	3・4	●	●
	Translation Skills b (2)	3・4	●	●
	Advanced Writing Skills a (2)	3・4	●	●
	Advanced Writing Skills b (2)	3・4	●	●
	Advanced Reading Skills a (2)	3・4	●	●
	Advanced Reading Skills b (2)	3・4	●	●
	Advanced Listening Skills a (2)	3・4	●	●
	Advanced Listening Skills b (2)	3・4	●	●
	Discussion & Debate a (2)	3・4	●	●
	Discussion & Debate b (2)	3・4	●	●
	English for Current Issues a (2)	3・4		●
	English for Current Issues b (2)	3・4		●
	Advanced Business English a (2)	3・4	●	●
	Advanced Business English b (2)	3・4	●	●
Advanced Research & Presentation Skills(2)	3・4	●	●	
中国語学科	中国社会研究入門(2)	1	●	●
	中国現代史研究入門(2)	1	●	●
	中国思想研究入門(2)	2	●	●
	中国文学研究入門(2)	2	●	●
	中国歴史研究入門(2)	2	●	●
	中国ビジネス入門(2)	2	●	●
	中国現代史 I (2)	3・4	●	●
	中国現代史 II (2)	3・4	●	●
	中国経済 I (2)	3・4	●	●
	中国経済 II (2)	3・4	●	●
	日中観光実務 I (2)	3・4	●	●
	日中観光実務 II (2)	3・4	●	●
経済学科	キャリア講座 I (2)	1～4	●	●
	キャリア講座 II (2)	1～4	●	●
不動産学科	不動産実務演習 I (2)	1～4		●
	不動産実務演習 II (2)	1～4		●

※外国語学部の学科・専攻によっては「共通科目【キャリア形成教育】」に含めることができる開放科目の対象外となる科目があります。詳細は教育課程表等で確認してください。

3 専門科目に含めることができる開放科目

開講学科	開放科目 〔 () の数字は単位数〕	開講年次	該当入学年度に●が付してある科目のみ履修可		
			2021年度 以降	2017～ 2020年度	2016年度
日本語学科	日本語学概論(2)	1	●	●	●
	日本語表現研究Ⅰ(2)	1	●	●	●
	日本語表現研究Ⅱ(2)	1	●	●	●
	日本語教授法(2)	1	●	●	●
	音声学概論(2)	2	●	●	●
	日本語音声学(2)	2	●	●	●
	日本語文法論Ⅰ(2)	2	●	●	●
	日本語文法論Ⅱ(2)	2	●	●	●
	言語学概論(2)	2	●	●	●
	日本語教材論(2)	2	●	●	●
	検定対策Ⅰ(2)	2	●	●	●
	検定対策Ⅱ(2)	2	●	●	●
	検定対策Ⅲ(2)	2	●	●	●
	検定対策Ⅳ(2)	2	●	●	●
	評価法研究(2)	2	●	●	●
	教案作成研究(2)	2	●	●	●
	日本語教育事情(2)	2	●	●	●
	第二言語習得論(2)	2	●	●	●
	日本語史Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	日本語史Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
日本語教育実習(4)	3・4	●	●	●	
英米語学科	異文化コミュニケーション概論a(2)	1・2	●	●	●
	異文化コミュニケーション概論b(2)	1・2	●	●	●
	英語学概論a(2)	1・2	●	●	●
	英語学概論b(2)	1・2	●	●	●
	英米文学概論a(2)	1・2	●	●	●
	英米文学概論b(2)	1・2	●	●	●
	英語教育学概論a(2)	1・2	●	●	●
	英語教育学概論b(2)	1・2	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅰ-a(2)	3・4	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅰ-b(2)	3・4	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅱ-a(2)	3・4	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅱ-b(2)	3・4	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅲ-a(2)	3・4	●	●	●
	コミュニケーション特講Ⅲ-b(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅰ-a(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅰ-b(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅱ-a(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅱ-b(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅲ-a(2)	3・4	●	●	●
	英語学特講Ⅲ-b(2)	3・4	●	●	●
	文学特講Ⅰ-a(2)	3・4	●	●	●
	文学特講Ⅰ-b(2)	3・4	●	●	●
	文学特講Ⅱ-a(2)	3・4	●	●	●
	文学特講Ⅱ-b(2)	3・4	●	●	●
文学特講Ⅲ-a(2)	3・4	●	●	●	
文学特講Ⅲ-b(2)	3・4	●	●	●	
中国語学科	中国方言基礎演習Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	中国方言基礎演習Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	中国語文法Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	中国語文法Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	中国語史Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	中国語史Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	日中言語対照Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	日中言語対照Ⅱ(2)	3・4	●	●	●

開講学科	開放科目 〔 () の数字は単位数〕	開講年次	該当入学年度に●が付してある科目のみ履修可		
			2021年度 以降	2017～ 2020年度	2016年度
中国語学科	現当代文学Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	現当代文学Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	古典文学Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	古典文学Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	東アジア比較思想論Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	東アジア比較思想論Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	中国宗教・文化論Ⅰ(2)	3・4	●	●	●
	中国宗教・文化論Ⅱ(2)	3・4	●	●	●
	中国芸術論Ⅰ(2)	3・4		●	●
	中国芸術論Ⅱ(2)	3・4		●	●
	中国文化体験(2)	3・4		●	●
	経済学科	日本経済論Ⅰ(2)	1		●
日本経済論Ⅱ(2)		1		●	●
日本経済史(2)		1	●	●	●
経営史Ⅰ(2)		1		●	●
経営史Ⅱ(2)		1		●	●
東洋経済史(2)		1	●	●	●
経済学史Ⅰ(2)		1	●	●	●
経済学史Ⅱ(2)		1	●	●	●
民法(2)		1	●	●	●
西洋経済史Ⅰ(2)		1	●	●	●
西洋経済史Ⅱ(2)		1	●	●	●
日本経済論Ⅰ(2)		2	●		
日本経済論Ⅱ(2)		2	●		
社会保障論Ⅰ(2)		2	●	●	●
社会保障論Ⅱ(2)		2	●	●	●
経営戦略論Ⅰ(2)		2	●		
経営戦略論Ⅱ(2)		2	●		
環境経済論Ⅰ(2)		2		●	●
環境経済論Ⅱ(2)		2		●	●
会社法Ⅰ(2)		2	●	●	●
会社法Ⅱ(2)		2	●	●	●
税法総論(2)		2	●	●	●
アメリカ経済論Ⅰ(2)		2	●	●	●
アメリカ経済論Ⅱ(2)		2	●	●	●
ヨーロッパ経済論Ⅰ(2)		2	●	●	●
ヨーロッパ経済論Ⅱ(2)		2	●	●	●
アジア経済論Ⅰ(2)		2	●	●	●
アジア経済論Ⅱ(2)		2	●	●	●
サービス経済論Ⅰ(2)		2	●	●	●
サービス経済論Ⅱ(2)		2	●	●	●
地方財政論Ⅰ(2)		3・4	●	●	●
地方財政論Ⅱ(2)		3・4	●	●	●
交通経済論Ⅰ(2)	3・4	●	●	●	
交通経済論Ⅱ(2)	3・4	●	●	●	
マーケティング論Ⅰ(2)	3・4	●	●	●	
マーケティング論Ⅱ(2)	3・4	●	●	●	
生産管理論Ⅰ(2)	3・4	●			
生産管理論Ⅱ(2)	3・4	●			
不動産学科	財産法の基礎(2)	1	●	●	●
	ミクロ経済学(2)	1	●	●	●
	都市計画の基礎(2)	1	●	●	●
	建築一般構造論(2)	1	●	●	●
	不動産公法(2)	1	●	●	●
	不動産学のための数学と統計(2)	2	●	●	●
	担保物権法(2)	2	●	●	●
	債権法(4)	2	●	●	●
	マクロ経済学(2)	2	●	●	●

開講学科	開放科目 〔 () の数字は単位数〕	開講年次	該当入学年度に●が付してある科目のみ履修可		
			2021年度 以降	2017～ 2020年度	2016年度
不動産学科	土地と住宅の経済学(2)	2	●	●	●
	会計学の基礎(2)	2	●	●	●
	経営分析(2)	2	●	●	●
	都市計画(2)	2	●	●	●
	測量と地図(2)	2	●	●	●
	地籍と不動産登記(2)	2	●	●	●
	ハウジング論(2)	2	●	●	●
	物権法(2)	2	●	●	●
	都市と建築の基本法(2)	2	●	●	●
	不動産政策史(2)	2	●	●	●
	建築史(2)	2	●	●	●
	住宅計画(2)	2	●	●	●
	不動産数理(2)	2	●	●	●
	都市と環境の経済学(2)	2	●		
	不動産鑑定評価論(4)	2	●		
	借地借家法・区分所有法(2)	3	●	●	●
	開発行政法(2)	3	●	●	●
	会社法(2)	3	●	●	●
	家族法(2)	3	●	●	●
	不動産トラブルと法(2)	3	●	●	●
	不動産金融法・不動産税法(2)	3	●	●	●
	環境法(2)	3	●	●	●
	都市と環境の経済学(2)	3	●	●	●
	不動産金融論(4)	3	●	●	●
	不動産鑑定評価論(4)	3	●	●	●
	不動産会計財務論(2)	3	●	●	●
	不動産ファイナンス(4)	3	●	●	●
	法と政策の経済学(2)	3	●	●	●
	不動産経営戦略(2)	3	●	●	●
	集合住宅管理論(2)	3	●	●	●
	不動産経営計画(2)	3	●	●	●
	都市開発と社会基盤(2)	3	●	●	●
	都市環境と防災(2)	3	●	●	●
	建築計画(2)	3	●	●	●
建築環境計画(2)	3	●	●	●	
建築材料学(2)	3	●	●	●	
建築構造計画(2)	3	●	●	●	
建築環境デザイン(2)	3	●	●	●	
建築設備(2)	3	●	●	●	
構造力学Ⅰ(2)	3	●	●	●	
構造力学Ⅱ(2)	3	●	●	●	
建築生産(2)	4	●	●	●	
HT学科	日本文化論(2)	1～4	●	●	●
	世界遺産論(2)	1～4	●	●	●
	デスティネーション研究A(日本)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究B(ヨーロッパ)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究C(南北アメリカ)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究D(アジア)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究E(オセアニア、太平洋地域)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究F(アフリカ、中東地域等)(2)	1～4	●	●	
	デスティネーション研究Ⅰ(日本)(2)	1～4			●
	デスティネーション研究Ⅱ(ヨーロッパ)(2)	1～4			●
	デスティネーション研究Ⅲ(南北アメリカ)(2)	1～4			●
	デスティネーション研究Ⅳ(アジア)(2)	1～4			●
	デスティネーション研究Ⅴ(オセアニア、太平洋地域)(2)	1～4			●
	デスティネーション研究Ⅵ(アフリカ、中東地域等)(2)	1～4			●

※英語で行われる科目(グローバル・マネジメント メジャー専門科目)は、他学部・他学科開放科目の対象外です。

産学連携教育プログラムの履修

産学連携教育プログラムとは、社会との接点、いわば大学教育と企業等社会とのパイプとなるもので、本学の美学教育の一環として開設する実学・実践的なプログラムです。

履修希望者は、必ず3月31日（木）の産学連携教育プログラム履修ガイダンスに出席してください。履修が許可されたプログラムについては、やむを得ない理由を除き、原則として途中で辞退することはできません。

なお、**修得単位は、共通科目の「キャリア形成教育」の卒業要件単位に算入**されます。詳細は、産学連携教育プログラム履修ガイダンス時に配布される資料及び『シラバス』で確認してください。

1 ANAツーリズム・ホスピタリティプログラム

株式会社ANA総合研究所との連携による日本語によるプログラムです。国際的な視野に立ったツーリズム、CS（顧客満足）及びサービスに関する実学知識・スキルを修得することを目的としています。

授業科目名（単位数）		年次
ツーリズム（観光）	ツーリズム概論(2)	2
	航空サービス論(2)	2
	フライトアテンダント・グラウンドスタッフ研究(2)	2
	ホテル・リゾート研究(2)	2
サービス（顧客満足・）	ホスピタリティ論Ⅰ（ホスピタリティ基礎）(2)	2
	ホスピタリティ論Ⅱ（ホスピタリティと産業）(2)	2
	ホスピタリティ論Ⅲ（ホスピタリティ・マナー演習）(2) *定員24名	2

【履修方法】

- 1 産学連携教育プログラム履修ガイダンスに出席し、「履修希望カード」を提出。
- 2 履修希望科目の初回授業に出席。
※担当教員から注意事項の説明がありますので指示に従ってください。（ホスピタリティ論Ⅲについては、初回授業で抽選を行う場合があります。）
- 3 履修登録期間中にWebポータルシステムで履修登録を行う。

2 ビジネスコミュニケーションプログラム 【先着順／定員各回20名】

本プログラムは、人間関係構築の視点からマナーと日本語によるコミュニケーションについて学び、人間が人間らしく生き、日常生活をスムーズに送り、そしてビジネスの世界においては安心と信頼から成る人間関係を構築するためのスキルを修得することを目的としたプログラムです。

授業科目名（単位数）		年次
ビジネスコミュニケーションA(1)	1	
ビジネスコミュニケーションB(1)	1	

【履修方法】

- 1 手続期間等（前学期）
第1・2回 4月5日（火）から先着順
第3回 7月8日（金）から先着順
- 2 取扱窓口
学事課（教務担当）窓口

注意 1 後学期開講スケジュール等については、後学期の授業開始前に掲示します。

注意 2 授業内容はA・B同一で、2科目2単位（2回）まで受講できます。

注意 3 本プログラムの単位数は、履修単位数の上限には含まれません。

3 野村証券ファイナンスプログラム（寄附講座）

【選抜／定員50名】

野村証券株式会社との連携による寄附講座です。日常生活を取り巻く環境が著しく変化している中、「自己責任の原則」の下、一般生活者・消費者又は貯蓄・投資者として賢くふるまうためのファイナンスに関する実践的な知識を修得することができます。野村証券株式会社の現役スタッフが証券市場の話題を中心に授業を行います。

授業科目名（単位数）	年次
資本市場の役割と証券投資(2)	2

【履修方法】

- 1 産学連携教育プログラム履修ガイダンスに出席し、「履修希望カード」を提出する。
- 2 履修許可者発表を確認する。
4月5日（火）2101・2103大講義室横掲示板
※履修希望者が定員に満たない場合、追加募集を行います。
- 3 履修登録期間中にWebポータルシステムで履修登録を行う。

参考 野村証券ファイナンスプログラム【2021年度まで】

授業科目名（単位数）	年次
〈野村証券提供科目〉 資本市場の役割と証券投資(2)	2
〈明海大学開設科目〉 証券投資シミュレーション(2)	2

注意 2022年度から「野村証券ファイナンスプログラム」は、プログラム構成が変更となりました。既に同プログラムの〔資本市場の役割と証券投資(2単位)及び「証券投資シミュレーション(2単位)」〕の単位を修得している場合、「野村証券ファイナンスプログラム（寄附講座）」は履修できません。

4 日経・ビジネスプログラム

日経メディアプロモーション株式会社との連携によるプログラムです。

授業科目名（単位数）	年次
日経・ビジネスプログラム(4)	2

5 サイマル・アカデミー通訳者養成特別プログラム

【選抜／定員2名】

株式会社サイマル・インターナショナルとの連携による英語通訳者養成のプログラムです。同社が開設しているサイマル・アカデミーの通訳コースに入り本格的な通訳スキルを修得するもので、サイマル・アカデミーの授業料等の減免及び本学からの奨学金の給付制度があります。また、本プログラムを履修する希望者は、通訳業務に関連したインターンシップを行うことができます。

なお、2022年度については、10月入学（履修）の募集となります。詳細については、掲示を確認してください。

サイマルにおける対応コース及びクラス等（英語コース）		本学における単位認定科目名（単位数）
サイマル・インターナショナルにおける通訳補助業務研修		サイマル・インターンシップ(2)
通訳コース (それぞれ週4時間 半年)	通訳 I	通訳入門 I（英語）(4)
	通訳 II	通訳入門 II（英語）(4)
	通訳 III	逐次通訳基礎 I（英語）(4)
	通訳 IV	逐次通訳基礎 II（英語）(4)